

科学技術・学術審議会人材委員会(64回)

# 次世代人材育成について

## 義務教育から高等学校

川口市教育委員会教育委員

山口善子

# 川口市では

## —知・徳・体の調和の取れた人間形成—

### • 義務教育の充実

#### (1) 教育内容の充実

- ア) 一人ひとりの個性を生かす教育の推進
- イ) 確かな学力の定着、豊かな人間性の育成、健康や体力の増進
- ウ) 環境教育、理数教育などの社会の変化に対応
- エ) 人権教育・学校同和教育の推進

#### (2) 健康教育と学校給食の充実

- 
-

# 学力・徳力・体力の向上

- 学力向上推進委員会

教員対象の学力向上研修会（授業力向上）

児童生徒の意欲向上

「日本語クイズグランプリ」

「手づくり社会化マップコンテスト」

「算数・数学寺子屋」

「川口理科オリンピック」

「学力向上アイデア実践事例集」発行

# 徳力向上推進委員会

- ・徳力・・・「自己のあり方や生き方を見つめ、  
よりよく生きようとする力」

## 3つの部会

「道徳」「特別活動」「ライフスキルかわぐち」

## 冊子の作成

道徳の時間の充実

学級会活動の実践に役立つリーフレット

ライフスキルプログラムに関する冊子

# 体力向上推進委員会

## 児童生徒の基礎体力の向上

体力テスト結果の分析、考察

指導計画の研究、教材・教具の開発

正しい生活習慣のための保健や食に関する指導

授業前や授業間における体力づくり活動

# 国際理解教育促進事業

- ・外国語指導助手(ALT)

民間の外国語指導助手派遣会社のALT26名を  
市内小・中・高に配置

日本人英語教師とのティーム・テーティングを通して、  
コミュニケーション活動

授業や給食、学校行事や部活動など様々な場面で  
児童・生徒がALTに接することで、異文化に触れ、  
異文化に興味関心を高め、国際性を養う。

# 研究委嘱事業

- 24・25年度委嘱

「学力向上」 12小学校

「徳力向上」 1小学校、2中学校

「教育に関する3つの達成目標」 1小学校

「環境教育」 1小学校

「『生きる力』を育むノーマライゼーション教育」  
1小学校

「学校間連携教育」 幼小中

「ライフスキル教育」 1小学校

「外国語活動」 1小学校 計23機関

# 集団宿泊生活

- 大貫海浜学園

小学校5年生 3泊4日

特別支援学級生5～6年生 2泊3日

- 水上少年自然の家

中学校2年生 3泊4日

特別支援学級生 2泊3日



# 学校の教育力の向上

## (1) 特色ある教育活動の充実

### 川口市教育改革プログラムの4本の柱

#### 1. 教員の意識改革

教員の資質向上は、教育改革における全ての土台となるもの

#### 2. 学校のしくみを変える改革

学校の自主性、自律性を尊重し『特色ある学校』をつくる

#### 3. 市立高等学校の改革

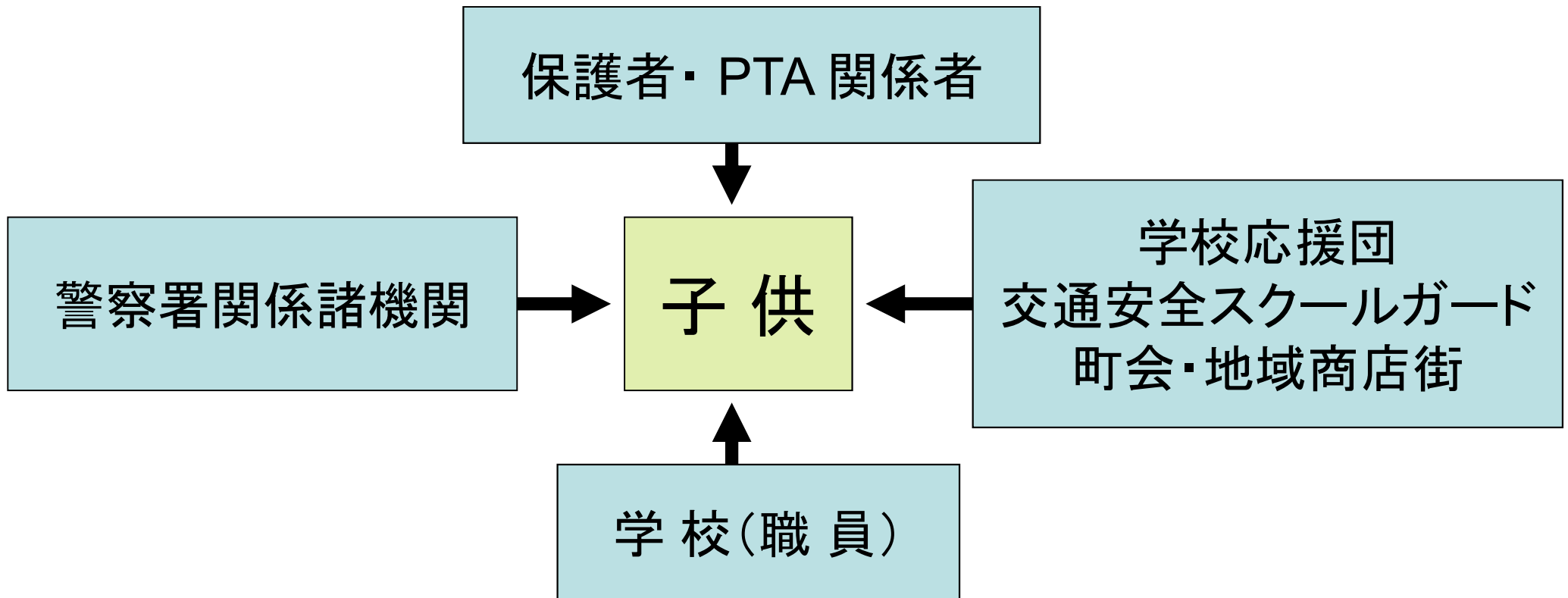
#### 4. 教育センターの建設

# 特色ある教育活動

- 中学生海外派遣事業  
オーストラリア(H10～)
- 高校生海外派遣事業  
カナダ(H1～)
- 小・中学生文化交流使節団派遣事業(H17～)
- きらり川口ジュニア議会(51名) (H11～)  
中学2～1名、市立高校1名
- きらり川口映像学習 (H15～)  
小学校5年生、中学校2年生  
総合的な学習の時間等 (1日～20時間)  
学校での活動と、彩の国ビジュアルプラザにおける活動

# 家庭・地域との連携

- 子供を守る運動強化週間（毎年6月1日～6月7日）



# 川口 きらり夢ワーク体験事業

- 中学校全校の1年生
- 職場における職場体験活動及び社会福祉施設で社会福祉体験活動、受け入れ先と協議
- 3日間連続、18時間程度、1日6時間を越えない範囲
- 市民の協力のもとに学校が主体性を発揮
- 働くことの厳しさや、責任の大切さを自覚し、挨拶の励行、時間を守ることなど、ルール・マナーの大切さを学ぶ。

# 新学習指導要領

小学校:23年 中学校:24年 高等学校:25年

- 「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視しています。
- これからの教育は、「ゆとり」でも、「詰め込み」でもありません。
- 次代を担う子どもたちが、これからの社会において必要となる「生きる力」を身に付けてほしい。

# 指 導 (例) 小学校

- 算数 3年生(三角形) 資料1
- 理科 6年生水溶液の性質 資料2

## 「自ら学び、豊かに伝え合う児童の育成」

読み取ったことや自分の考えを伝え合う活動を工夫して自分の読みを広げたり、深めたりできる児童を育てる。

個人・ペア・グループ・全体による話し合い活動の設定

# 高等学校では

(埼玉県教育委員会HPより)

埼玉教育の基本的な考え方(基本理念)

「生きる力を育て 絆を深める埼玉教育」

施策の実施に当たって — 3つの観点 —

- 子どもを認め、鍛え、はぐくむ
- 一人一人の学びと夢を応援する
- 県民の教育力を結集する

# 進捗状況例

## 基本目標

### I 確かな学力と自立する力の育成

大学や研究機関などと連携した講義や授業を継続して教育活動に取り入れている県立高校の割合

(19年度) 54.3%

(24年度) 66.7%

(25年度目標) 65.0% 目標達成



# 世界を目指す「志」育む ー埼玉県教委ー

## ■ 県立高校海外派遣プログラム

県立高校生 40 名をハーバード大学 やマサチューセッツ工科大学へ短期派遣(大学に派遣)

平成 23 年度より 県立高校 20 余校から 県が 40 名を選考  
キャンパスツアー、講義体験、高校での授業体験, etc

## ■ 海外授業体験推進事業

23 年度 8 校、24 年度 10 校、25 年度 8 校

海外の高等学校と連携、相手校の生徒宅にホームステイ  
授業、行事、奉仕活動等 カリキュラムは各校が決める。

## ■ 高校生海外大学等短期派遣事業

海外の高等学校等の授業への参加体験、研究室訪問、学生との  
意見交換。各校が内容を決める。

姉妹校訪問に合わせ近隣の大学の授業の訪問や研修を実施。

23 年 8 校、24 年 10 校、25 年 8 校

# 世界を目指す「志」育成事業

— 平成 23 年度より —

- 高校生のための対話型講義 「白熱教室入門」  
若者の内向き志向を懸念し、県が主催  
夏休み：早稲田大学国際会議場 約 270 名  
第1部「社会とつながる働き方をデザインする」  
講演とワークショップ 株式会社スプリーの代表  
第2部「これからの生き方を考える～公共に私たちはどう  
関わるか～」  
議論 千葉大学大学院尋問社会研究科教授
- 高校主催例（本庄高校：11月）「白熱教室」  
「10年後の自分の姿を考える～学ぶこと、働くこと、社会  
貢献について～」をテーマに議論

## 生徒からは、次のような感想

- ・ 今まで受けたことがなかったタイプの講義だったのでおもしろかった。
- ・ 他校の生徒の意見が聞けて良い刺激となった。
- ・ もっともっと自分の意見を言えるようになりたい。
- ・ ただ闇雲に勉強するだけでなく、日本の社会をどうするかきちんと考えなければならないと思った。
- ・ 自分が今進路などで悩んでいるなかで、安藤さん(第1部の講師)の話を聞けてよかった。
- ・ 対話を通して自分がどのように公共に関わっていくのかについて理解を深め、将来を考えるきっかけとなりました。

# 本庄高校の生徒の感想

- 生徒たちからは「他人の意見を聞いて、自分の意見の欠けているところに気付いた。
- 自分の意見が変わっていくことを体験できたことがよかった」
- もっと同じ意見の人、違う意見の人と話し合うことが大切だとわかった。

# 未来拓く「学び」推進事業

- ・ 東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構（CoREF）と平成22年から「県立高校学力向上基盤形成事業」として研究・連携
  - 本事業は、埼玉県と CoREF との間で、研究の期間を平成24年4月から平成27年3月までの3年間として、研究・連携を新たな形で推進する。

## 平成25年度の事業の4つの目的

1. 未来を担う生徒に、コミュニケーション能力、問題解決能力、ICT活用能力など、これからの時代を主体的に生きるために必要な能力を育成する。 → 協働学習(協調学習)に基づく授業改善を図る。
2. 学習者の視点に立った、自ら学ぶ意欲をはぐくむ教材の研究・開発
3. 大学や企業等の持つ知見を教育現場に活用することにより、学校の教育力を高め、生徒の学力向上に資する。
4. 協同による教材開発、授業実践、評価の実践を通じて、継続的な授業改善を推進し、生徒の主体的な学びを支えていく中核教員を養成

本年度の参加校 75 校 参加教員 211 名 6, 9, 12 月に公開授業を実施

# SSH活動(1例)

- 「Nature Cafe」が浦和第一女子高校で開催
- 浦和第一女子高校と熊谷女子高校が参加

## テーマ

「『理系』で広がるキャリアパス ～ 輝く理系女性たち～」

- nature photonics 誌 Rachel Won 編集長
- (独)放射線医学総合研究所 山田真希子 サブリーダー
- 東京大学理学系研究科 横山広美 准教授
- 京都大学大学院理学研究科生物科学専攻 高橋淑子 教授

生徒の感想： 自分たちの進む道を自分自身で決めたい。



# 研究紀要の例 (埼玉県川口市立元郷南小学校)

平成24・25年度  
川口市教育委員会研究委嘱  
学力向上に関する研究

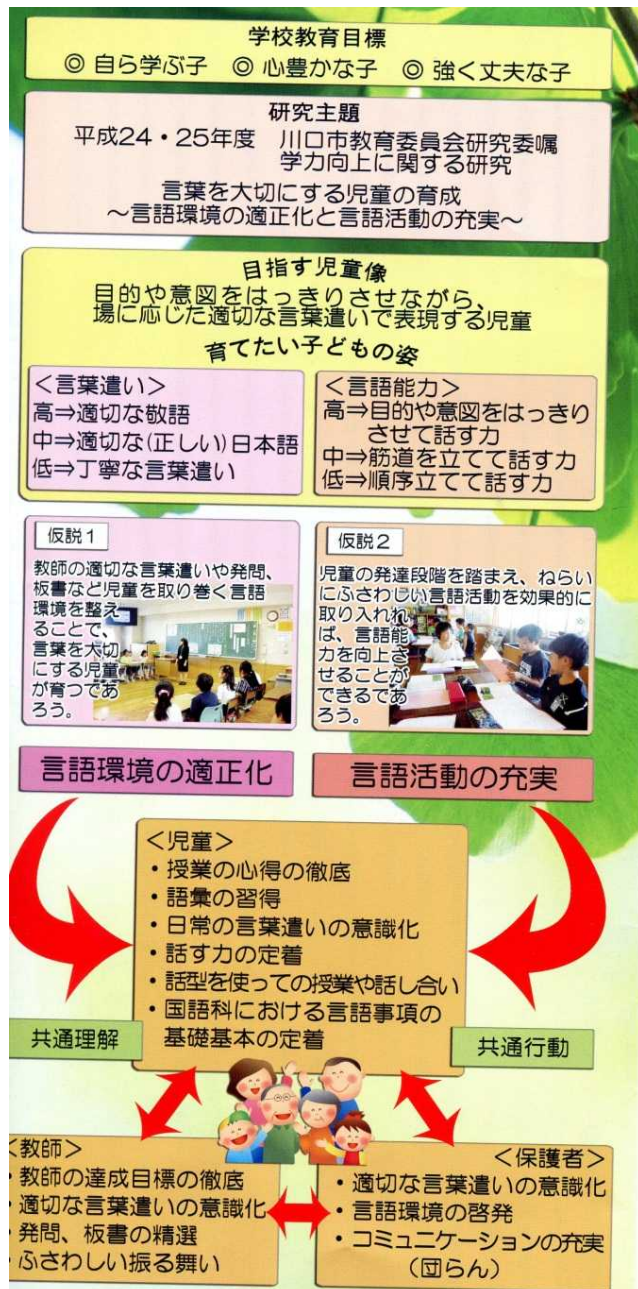
## 研究紀要

研究主題  
言葉を大切にする児童の育成  
～言語環境の適正化と言語活動の充実～



元気いっぱい 笑顔いっぱい 楽しさいっぱい  
川口市立元郷南小学校

〒332-0011 埼玉県川口市元郷2-15-20  
www.sch.kawaguchi.saitama.jp/motogominami-e/



**言語環境整備部**  
校内環境の充実・改善

〇ことばを大切に  
する掲示の工夫

〇ことばを大切に  
する掲示の工夫

階段や廊下

「口の体操」や話型

言語環境の整備と研修会の開催

〇教職員のためのマナー研修会

共通理解・共通行動のための  
「教師用マナーブック」と  
「児童指導用資料」の作成・活用

あいさつ・言葉遣い・敬語の使い方  
など、実践を交えて学ぶ研修会

**実践部**

研究授業

国語科を土台にした  
言語能力の育成

算数(3年)

「はしたの大きさの  
表し方を考えよう」  
まどめたことを相手に分  
かりやすく説明する活動

「うはわたた自  
道徳の時間の特  
指導、教師の発

国語(1年)

「くじらぐも」  
教師の的確な言葉遣い、精選  
された発問や指示による活動

国語(6年)

「海の命」  
相手の意図をとらえながら聞き、  
自分の意見を伝え合う活動

「ありの  
目  
22